

2011年JICA七夕祭り 浴衣体験会



はい、は～い、こちら七夕祭りの現場で～す。こちらの様子をレポートします。

今日 7 月 2 日、今年もいよいよJICA七夕祭りの日を迎えました。現在 12 時 15 分、IINの会員が続々集まっています。32 名のみなさんでしょうか。それぞれの持ち場に分かれて、今から研修員をお迎えすべく準備中のようです。表情に緊張感が漂っています。

あつと、集合時間は 1 時ですが、もう研修員たちが受付に来はじめましたね。しかし、今回は穏やかな雰囲気の出付け係のようです。「今回はいつもと雰囲気が違うようですが、いつもの出付けとなにがちがうのですか？」

「今日来られる研修員の方は今までで一番ですねえ。まずキャンセルが一人もいないし、集合時間に遅刻もしない。こんなに楽な出付けは初めてですよ。素晴らしい！」

「あの男性会員はなにをされているのでしょうか？ プラカードを持って JICA 研修員を追いかけしています・・・『出演者募集』の字でしょうか・・・すみません、今なにをされているのですか？」

「あ、はい、パフォーマンスをしてくれる研修員をここで募集しています。まああの反応です。私のいつもと雰囲気が違う？ そうですかあ、いつもまじめ路線ですのですねえ。でも、このギャップ、よくありませんか？ ついでの私も個人的に募集を試みましょうかねえ、あつ、失礼しました。」

はい、次は、この行事のへそ、一番の中心の和室に行ってみましょう。浴衣渡し係がまず



廊下において、ここ暑いですねえ、中では着付け担当の方たちが所狭しと着付けを始めています。研修員たちが本当に嬉しそうな表情ですよ。髪の毛をアップにしてもらっている女性研修員はなんだか、艶やかですねえ。男性はいつものことながら、侍の雰囲気で、あららら、刀を振り回しているつもりになってませんか？ 40 人もの着付けをするという無謀なことを引き受けている着付け代表の方、こちらにどうぞ。



「毎年大変ですねえ。何か問題は？ 着姿での着付け、暑くないですか？」

「浴衣の着付けで、一人の女性の体格が大きすぎて 着物の身幅がせまくて 着せるのに大変でした。やはり 特大の着物も必要ですね。 ひもを2本つなげないと腰回りが結べない人も数人いました。和室はエアコンと扇風機がありましたので心配した程暑くはありませんでした。大勢でしたが、時間内に着付けが終わりほっとしました。」



予定通り 1 時 55 分、いよいよ七夕祭りが始まります。赤いめがねで司会者が登場です。張り切っていますね。今回二回目の司会に挑戦する、IINの若手です。そして開会の辞は副委員長。堂々たる挨拶です、誰かががり症ですって？ 浴衣姿も粋ですよ。研修員の皆さんが書いた短冊の笹飾りが涼やかに揺れています。





次は着付の demonstration です。司会からマイクを受け取ったのは、ベテランの説明役です。それにしても、モデルの美しさを際立たせるピンクの振袖の着物が華やかです。帯はモダンな銀鼠の柄行き。複雑な形に結び上げて行くのは、着付の代表と超ベテランのお手伝い役の二人。力強い帯結びに、拍手がおきました。説明役のユーモアに着付代表も応えて、おっと、ちからこぶのポーズ！一同笑いの渦です。そろそろいつものオチに行くのでしょうか？はい、袖を振っています…大爆笑です。

振袖の謂れと既婚の女性の着物の袖の長さ…ご存知でした？あの袖は男性の気を引くためのアイテムだったんですって！確かに結婚してしまえば、もう長い袖は必要なくなるんですね。いつもの楽しい説明に会場の雰囲気も一層、和気あいあいになってきました。今回もユニクロの浴衣の値段や京都での着物観光など新しい情報が入っていますねえ。



着付披露が終わると、研修員全員での集合写真。きれいに撮れています。40台のカメラの山が、一つ、また一つと仕事を終えて行きます。あの中に日本での思い出がいっぱい詰まっているのでしょうね。今日もきっとその大きな一日であると思われます。



はい、皆さん、各テーブルにつきました。ほっと一息の tea time ですね。あれれれ、今回のテーブルの配置はまとまりが無く、バラバラです。中央にはビュッフェのワゴンがデーンとあり、太い柱も各テーブルからの死角を大きく作っていますね。この後、大丈夫でしょうか。司会には辛いシチュエーションに違いありません。えっ、そんなこと関係なく、お菓子の説明が始まってしまいました。静かに一つ、結構みんなが各テーブルで注意しています。そうしないと、みんなの興奮が収まらないですね。あっ、静かに



なりました。ふう〜ん、案外すぐに静かになるもんなんですね。それに、今回のお菓子の説明係、内容を暗記してきましたよ。緊張の中で、ゆっくりはつきり、英語での説明に頑張っています。ところで、皆さん、70人の前で英語で話をする緊張感って、想像できます？それも暗記して話すって、大変なことです。それを経験すると、そしてそれを乗り切ると、違う視界が開けてきますよ。英語の勉強の仕方としては荒療治ですが、一度試してみてください。自分が今まで恥ずかしいと躊躇していたことも、平気に思えてきます。いい方を変えれば、厚かましくなれるのです。これくらいどうってことないと大概の英語の場面を乗り切ることができるようになってきますよ・・・えっ、いったい私はどんな立場で話しているかって？・・・失礼しました。レポートを続けます。皆さん、目の前の和菓子とお茶を頂きながら、賑やかなおしゃべりに余念がありません。ではここで一旦、CMを。「みんなちがって、みんないい……」



七夕の紙芝居をOHCで映しての準備が始まりました。今度は何が始まるの・・・とみんなの興味がスクリーンに吸いこまれていきます。司会者が前に立つ時には、みんなの集中がまとめやすくなっているようです。話す側と聞く側の協力体制が作られてきているという流れですね。なるほど。

さて、お待ちかね、絶対に外すことのない七夕名物「うしかいさんとたなばたさん」

のはじまり、はじまり。穏やかなナレーション。重々しい雰囲気の中の神様。気持ちのこもった、可愛いたなばた姫。優しくまじめなうしかいさん。二人のロマンチックな絡みには、ヤンヤ、ヤンヤの声と大笑い。皆さん楽しまれたのではないのでしょうか。少し、聞いてみましょう。

「今の七夕の物語、いかがでしたか？」

「名優揃いで、最高のキャスティング。主人公の二人の名演技にはお顔に似合わぬ(?)隠された才能新発見！まさに目から鱗！ 研修員の方と子ども、拍手喝采を送りました。」

「七夕ストーリーテリングはいつも楽しいし、毎回グレードアップですね。ナレーターも数人でなされ、活躍の場面が多く良かったです。ほかの行事でも上演の機会を願います。」そして、司会者が詳しい星の説明や東日本大震災の被災地でもある仙台の七夕祭りにまで話を広げています。続いては、タンポポ少年少女合唱団の出番です。





恥ずかしそうな子、張り切っている子、いろんな表情を見せながら、わらべうたの熱演が始まりましたね。研修員を巻き込んでのじゃんけん遊びに、とおりゃんせのような門くぐり。鳴り物も入って一層みんなのボルテージも上がっています。少々狭い場所でごちゃごちゃになりながらのこのエネルギーは、鳴門の阿波踊りといきましょうか、リオのカーニバルといきましょうか、何とも物凄いものがあります。このエネルギー、なんとか変換して、この夏のエアコンに利用できないものでしょうか。お国の子どもさんを想って研修員も異様な親エネルギーを出しているかに見受けられます！たんぽぽ担当の司会者さん、いかがですか～？



「はい、は～い。わらべうたは本来、遊びを人前で見せるためのものでないため、パフォーマンスとしてはまとまりがつかないかなと心配でした。事実、『じゃんけん遊び』あたりから舞台上に遠い席のJICAの方の関心がなくなり始め、これはマズイ！とあせりました。でも、この『門くぐり』ではおとな、子どもとも笑い声にあふれ、よかったなと思います。わらべうた遊びは、わたしの経験では見ているより実際子どもとやってみると100倍いや1000倍楽しいものです。」では、たんぽぽ合唱団の子どもたちに聞いてみましょう。「次は自分も英語を勉強して外国の人と話がしてみたい」ほお、積極的ですな。「JICAの人たち浴衣着ていて暑そうにみえた……」まあ、冷静なご意見。たんぽぽ合唱団の先生の感想は？「私は一言でいえば、子ども達にとっても有意義な瞬間だと思います。瞬間というのは、この場でとっさにみせた子どもの反応のいくつかを見たからです。皆さんが楽しく盛り上がり下さることで、普段よりはっきり大きな声で話が出来た子どもや、初めて会う外国の方に自ら接していった子どもの勇気などなどです。ありがとうございます。」

一方研修員はどう感じていたのでしょうか。「素晴らしい楽しい体験をさせてもらった！ 最高の思い出になる。ザンビアに帰って皆に話すんだ！」また、会員からはこのような報告もあります。「たんぽぽの皆さんのじゃんけんの伝承歌を、研修員のみなさんはとても楽しまれて、グ、チョコキ、パを必死に覚えようとされ何回も、何回も、聞いてメモされていたのが印象的でした」。

出演した子どもたちとその遊びに加わった JICA 研修員。その両方の心に「国際交流」という希望の種がそっと植え込まれた確かなひと時でした。この橋渡しこそ IIN が目指しているものの一つではないでしょうか。



そして、いよいよ研修員からの performance のご披露が始まります。このコーナーは、新旧司会者の掛け合いで進められるようです。余裕の表情でボケとツッコミまで英語でご披露とは……恐るべき司会者達です！！先程の募集も効いたのでしょうか、早速、メキシコのグループが衣装とソブレロを揃えて、陽気に歌っています。♪アーイ、アーイ、アイ、ア～イ、カーンタイノジョレス！♪ コホン、失礼

しました。次は、ブラジルの女性がギターを手にして、前にやってきました。ボサノバ・・・この大人の雰囲気をもどのお伝えしましょうか。一言「ス・テ・キ」です。次に登場はタイの女性グループです。手のそり具合がなんと素晴らしい。ほかの研修員たちがその意味を教えてもらい、手のまねをして、タイの歌に合わせて、盆踊りのようにまわって踊っています。いろんな国からの研修員たちが、違う文化で一つになるって理屈抜きに美しい。ここに大きな平和の花が咲きました＊



さて、コンボの歌を皆さんは聞いたことがあるでしょうか？今、私は、不思議な体験をしています。コンボからの女性研修員の歌の意味はもちろん全然わからないはずなのに、歌の物悲しさからコンボの抱える辛さやその歴史まで感じてしまいます。ここにも胸にずんと響く文化があります。「あなたのソロ素晴らしかった！」とのある会員の言葉に、「まだドキドキしてるの！」といわれたとか。震える思いで伝えたかった自国の文化の一端は、間違いなく、しんとしたその場の



みんなに伝わりましたよ。まだ、私の胸もドキドキしています。最後はマレーシアの皆さんが賑やかに素晴らしい笑顔とともに歌の披露ですね。こちらも彼の地の太陽を想わせる明るさです。この行事は本当にいろんな国の文化に直接触れることのできる貴重な時間ですね。

七夕祭りは最終段階を迎えようとしています。文化の交流ですので、最後は日本の七夕の歌をお聞か



せせねばと、激しい歌い手が会員から出てきました。もしも、お隣の研修員さんが引いていますよ！

そして、いよいよ終わりを迎えています。終わることの寂しさを感じている様子の皆さんです。最後に実行委員長が挨拶をして、大きな拍手をみんなさんから貰っています。そしてこの拍手は同時に、みなさんのための拍手でもあるのでしょうか。今日の七夕祭りは、確かに企画や準備は IIN 側が大きく寄与していますが、JICA 側のご協力と JICA 研修員の皆さんに支えられてこそ、作り上げていけたのではないのでしょうか。だからこそ、全員の満足感がこの会場を包み込んでいるのでしょうか。司会者が最後まで頑張って皆さんをひきつけて、笑いを最後にとって、終わりを迎えました。大成功！

現場からの実況は以上で～す。

